



## 理事会開催報告 — 2020 学年度は 860 人採用 —

6月12日、全国から理事29人、監事3人および小沢一彦名誉理事長が出席し、第22回理事会が開催されました。

齋藤直美理事長の進行の下、主な議案として、2019 学年度奨学生採用の件、業務委託規程・覚書の件、2020 学年度奨学生採用数と募集要項の件、2019 年度事業計画案・収支予算案などが審議されました。継続審議となった業務委託規程・覚書の件を除いて、その他の議案は原案通り承認され、2020 学年度の奨学生採用数は、前年度比10人（枠）増の860人（枠）とすることなどが決定しました。

昨年8月の理事会で「議案以外のことについても意見交換して、理事会を活性化させたい」との意見を頂いたことから、議事終了後は、「学友」としての意識付けをいかに図るか」など、40分にわたり、活発な意見交換が行われました。



## 帰国学友歓迎会 & 日本人奨学金 — 韓国米山学友会 —

韓国米山学友会が5月18日、毎年恒例の「帰国学友歓迎会」を開催しました。この会は、今年韓国へ帰国した元米山奨学生を歓迎する会で、今回は帰国・新規学友5人を含む25人が参加しました。

また、当日は、同学友会が支援する日本人奨学生3人（梨花女子大学 通訳翻訳大学院2人、東国

大学 仏教大学院1人）も参加し、全員の前で奨学金が授与されました。この奨学金は2016

年、米山学友たちの恩返しの気持ち、そして、日韓の懸け橋となる若者を支援したいとの考えから設立され、同学友会ではこれまでに累計11人の日本人を支援しています。



## 寄付金速報 — 今年度の送金はお早めに —

5月までの寄付金は前年同期と比べて3.0%減（普通寄付金:0.3%増、特別寄付金:4.5%減）、約3,910万円の減少となりました。5月単月の特別寄付金が前年度と比較して1,570万円減少したため、前年同期比の累計額も先月に比べて減少幅が大きくなっています。

2018-19年度も残り約半月です。普通寄付金上期・下期ともにまだご送金されていないクラブは、6月28日（金）までに当会の銀行口座に入金記帳されるようお送りください。引き続き、今年度も最後までご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。

## 【訃報】 名誉理事長 末永直行氏 逝去



当会名誉理事長（元理事長）の末永直行氏が、5月14日にご逝去されました。96歳でした。

末永氏は1959年に福岡西RCに入会され、1970-71年度ガバナー、1982-84年度国際ロータリー理事など、ロータリーにおいて要職を歴任されました。当会においては、1973-77年度理事、1977-87年度常務理事、1987-92年度副理事長、1992-2001年度には第

3代理事長をお務めいただくなど、実に30年近くの長きにわたり、米山記念奨学事業のために多大なご貢献をいただきました。記録に残された発言の数々は、米山奨学事業が今後アジアにおける日本の信頼を確保し、真の知日派・親日家を世界に根付かせていく期待に満ちています。ご遺志により、葬儀・告別式は近親者のみですで行い、後日、お別れの会が開かれるとのことです。

ここに謹んで哀悼の意を表し、氏のご冥福をお祈り申し上げます。

## 学友会のコラボ活動 — 第2610 & 2650地区 —

第2610地区（石川・富山）と第2650地区（福井・京都・奈良・滋賀）の両米山学友会による共同イベント、「みんなの交流会」が5月25～26日、石川県羽咋市内で行われました。

この交流会は昨年続く2回目の開催で、今年は学友・奨学生・ロータリアンら36人が参加。格闘技エクササイズやうちわ作りなど、参加者による自主企画のプログラムを中心に、交流を深めました。また翌日は、能登の海岸清掃活動を2時間かけて行い、さわやかな汗を流したとい



うことです。

第2610地区米山学友会の董又碩<sup>ドンウツク</sup>会長（2012-14/能美RC）は、「われわれ第2610地区米山学友会としてはこれが初の公式な奉仕活動で、それを第2650地区との共同行事で行うこ

とができたことは、とても意義深いと感じました。米山学友が力を合わせて地域に貢献する活動ができたことが本当に嬉しく、これからも定期的に奉仕活動しよう！と意気投合しました」と、語りました。

## “絆 in モンゴル” 直前情報

7月27日・28日にモンゴルの首都ウランバートルで開催される米山ファミリーの集い「絆 in モンゴル」には、おかげさまで多くの皆様から参加登録をいただきました！

ホスト国モンゴルはもとより、日本各地、台湾、韓国、中国、タイ、マレーシア、ベトナムなどからも多くの学友が参加。また、これまでに200人超のロータリアンの登録をいただき、全体では450人規模の大きな祭典となりそうです。

27日の式典・懇親会では、参加者の皆さんに

楽しんでいただこうと、モンゴル伝統の音楽・舞踊や各学友会の紹介などが予定されています。また、28日の遊牧祭も個人ではなかなかできない体験です。このほか、参加者からの要望に応じて、26日には実行委員長のジャンチブ・ガルバドラッハさんが理事長を務める「新モンゴル学園」の見学ツアーも企画中のとのことです。

なお、航空券やホテルをご自身で手配される場合は、登録はまだ受付可能です。ご希望の方は、mongolianyoneyama@gmail.com まで。